

新潟県教育界における「学閥」問題（第十五回）

にいがた県民教育研究所「学閥」研究会

第八章 資料編・新潟県の各市町村・学校・組合に

における「派閥」支配の実態（その二）

- 前回、資料編（その一）として新潟市、長岡市・栃尾市・古志郡・三島郡および上越市について各学校ごとの「派閥」支配の実態を示した。今回は（その二）として
- 1、新潟大学および上越教育大学附属学校
 - 2、新発田市・豊栄市
 - 3、西蒲原郡・燕市
 - 4、柏崎市

について、前回同様、最近十年間について、校長、教頭など管理職ポスト支配について各学校ごとの資料を示す。表の各欄についての表記法は前回と同様である。所属「派閥」

の記号は次のとおりである。

- 「ときわ会」
- 「公孫会」
- * 「新陽会」
- △ 「検友会」
- + 「青萐会」
- ▽ 「女教員会」

また二つ以上の「派閥」に重複して加入している場合は次の記号で示した。

- ⊙ 「検友会」で「ときわ会」にも二重加入
 - ▲ 「検友会」で「公孫会」にも二重加入
 - ▼ 「女教員会」で「公孫会」にも二重加入
- なお新潟大学教育学部附属学校教員のうち「ときわ会員」

についてはさらに出身大学を区別するために、「ときわ会」であって新潟大学教育学部出身者には◎印、「ときわ会」であって新潟大学教育学部出身であってかつ現職教員としての大学院修士課程終了者には◎印の記号で示した。また無派閥（非派閥）は☆印で示した。

1、国立大学附属学校

— 附属新潟小・中学校、長岡小学校は「ときわ会」の巢、長岡中学校は「ときわ会」と「公孫会」で教科ごとに分配—

a、附属新潟小学校

新潟大学教育学部附属新潟小学校における教員の最近十年間の所属「派閥」を第1表に示した。大学教員の有資格者から選挙で選ばれる校長と一名の女性教員をのぞいて全員が「ときわ会」であり、そのうちでも○一名をのぞいて全員が新潟大学教育学部出身者（「新潟大学教育学部同窓会」）で占められている。附属学校の公開授業や教員の質は「ときわ会」の水準をよく示している。このように「男だけの教育団体」である「ときわ会」の人事支配によって本来の小学校教育にふさわしい教員の男女比が損われている。第2表に全国のいくつつかの国立大学附属小・中学校にお

附属新潟小学校

Table with columns for subject (国語, 算数, 理科, 社会, 数学, 英語, 音楽, 美術, 保健, 体育), years (89-80), and gender (男, 女). It shows a grid of symbols representing affiliation for each subject and year.

附属新潟中学校

Table with columns for subject (国語, 算数, 理科, 社会, 数学, 英語, 音楽, 美術, 保健, 体育), years (89-80), and gender (男, 女). It shows a grid of symbols representing affiliation for each subject and year, with some cells containing diagonal lines.

第1表 附属新潟小・中学校における教員人員の「派閥」支配の実態（1980～1989年）、○印は「ときわ会」、◎印は「ときわ会」かつ新潟大学教育学部出身者、◎印は「ときわ会」かつ新潟大学教育学部出身かつ現職教員の大学院修了者。☆印は無派閥、斜線は該当者のいない（空欄）ことを示す。

第2表 国立大学附属小・中学校における教員の男女比の例。

校長、副校長（教頭）をのぞき、全体に対する女性教員の割合を女性率として示した。（新潟県内は1989年、その他は1988年のデータ）

国立大附属小				国立大附属中			
学校名	男	女	女性率	学校名	男	女	女性率
附属新潟小	18	1	5%	附属新潟中	12	2	14%
“ 長岡小	13	2	13%	“ 長岡中	14	0	0%
上教大附属小	14	1	7%	上教大附属中	14	1	7%
山形大附属小	20	6	23%	山形大附属中	17	4	19%
宮教大 “	26	6	19%	宮教大 “	18	3	14%
福島大 “	30	2	6%	福島大 “	18	3	14%
宇都宮大 “	19	4	17%	宇都宮大 “	18	3	14%
筑波大 “	32	2	6%	筑波大 “	23	6	21%
群馬大 “	27	3	10%	群馬大 “	19	2	10%
千葉大 “	29	6	17%	千葉大 “	25	4	14%
山梨大 “	16	5	24%	山梨大 “	15	5	25%
信州大長野小	21	1	5%	信州大長野中	28	1	3%
“ 松本小	15	0	0%	“ 松本中	18	1	5%
富山大附属小	13	2	13%	富山大附属中	16	4	20%
金沢大 “	17	8	32%	金沢大 “	17	4	19%
福井大 “	9	5	36%	福井大 “	12	4	25%
愛教大名古屋小	29	4	12%	愛教大名古屋中	29	1	3%
“ 岡崎小	19	3	14%	“ 岡崎中	22	2	8%
京教大京都小	20	6	23%	京教大京都中	17	3	15%
“ 桃山小	13	3	19%	“ 桃山中	16	6	27%
奈教大附属小	18	10	36%	奈教大附属中	19	6	24%
奈女大 “	13	2	13%	奈女大 “	7	3	30%
和歌山大 “	18	7	28%	和歌山大 “	15	5	25%
神戸大住吉小	21	6	22%	神戸大住吉中	22	3	12%
“ 明石小	15	0	0%	“ 明石中	14	1	7%
兵教大附属小	19	4	17%	兵教大附属中	12	3	20%
広島大東雲小	17	7	29%	広島大東雲中	12	3	20%
“ 三原小	9	7	44%	“ 三原中	11	1	8%
高知大附属小	19	9	32%	高知大附属中	15	5	25%

附属養護学校

		89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	性別
小 学 部	校長	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	男
	副校長	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	教頭	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	教諭	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	教諭	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
中 学 部	〃	☆	☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	☆	☆	○	○	◎	○	○	○	◎	◎	男女男
	〃	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	女
	〃	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	〃
	〃	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	〃
	〃	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	〃
高 学 部	教諭	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	男
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
高 学 部	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
高 学 部	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
高 学 部	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
高 学 部	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
高 学 部	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
高 学 部	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
高 学 部	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
高 学 部	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
高 学 部	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
	〃	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃

第3表 新潟大学教育学部附属養護学校における「派閥」支配の実態（1980～1989年）

る教員の男女比を示したが、新潟県内の国立大学附属学校の教員の女性率は全国最低の部類である。全国的にみても「派閥」、「学閥」、「教育会」、「教育会」など種々のインフォーマル組織による人事介入が行われ、「附属学校」が立身出世のための通過点にされている学校で女性率の低い傾向が認められる。なお「ときわ会」の「住所」はこれまで「附属新

潟小学校気付」であったものが一九八九年度より「新潟市西大畑町五九〇―三 新潟教育会気付」に変更された。しかし「ときわ会本部幹事」六名のうち四名は一九八九年度も附属新潟小学校の副校長と教頭、および附属新潟中学校の副校長と教頭とが担当するという「派閥」運営の実質には変わりはない（他の二名は新潟市立新潟小学校、「ときわ会長の在任校」の教頭と新潟市立鳥屋野中学校（「ときわ会」副会長の在任校）の教頭が担当している）。附属学校の副校長や教頭にとっては本務よりも「閥務」の方が大切なかも知れない。

b、附属新潟中学校

附属新潟中学校における「派閥」支配の実態は第1表に示すとおりである。校長と女性教員をのぞいて「無派閥」は過去に音楽などで例外があった程度で

附属長岡小学校

職名	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	性別
校長	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	男
副校長	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
学内教頭	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
教諭 1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
5	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
6	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
7	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
8	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
9	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
10	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
11	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
12	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃
13	☆	☆	☆	○	○	○	○	◎	◎	◎	女男
14	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	女

現在は男性教員はすべて「ときわ会」である。
c、教育学部附属養護学校（新潟市）

「派閥」支配の実態を第3表に示した。やはり校長と女性教員をのぞいて「ときわ会」の人事支配下にある。男性教員は二十歳台の若手教員の若干の例外らしきものを除いてすべて「ときわ会」である。一九八六年春に二十五歳で

教育学部附属幼稚園

職名	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	性別
園長	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	女男
副園長	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	男女
教諭	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	女
〃	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	女
〃	◎	◎	◎	◎	◎	☆	☆	☆	☆	☆	男女

第4表 新潟大学教育学部附属長岡小学校および
附属幼稚園における「派閥」支配の実態
(1980～1989年)

赴任したある男性若手教員はその前年の秋に「ときわ会」に加入している。「ときわ会」は県教委義務教育課特殊幼児教育係長や指導主事、県立教育センター特殊教育課指導主事などに障害児教育関係の「指定席」をもっており、附属養護学校の経歴はこのようなポストと連動している。なかにはそのような「指定席」につくために一年間だけ附属

養護に在籍した例がある。なお「閥務」としては附属新潟小・中学校が「ときわ会」の「閥務」の中枢を担当しているのに対して、附属養護は「ときわ会」の支配下にある「新潟大学教育学部同窓会」の雑務を「閥務」として担当し、その事務局が置かれている。

d、附属長岡小学校

教員人事における「派閥」支配の実態を第4表に示す。校長と女性教員をのぞいて全

員が「ときわ会」であり、「ときわ会の巢」となっている。「ときわ会」の中でも一名をのぞいて「閥中閥」である新潟大学教育学部出身者によって占められている。さらに「閥中閥」のうちでも旧新潟大学教育学部長岡分校出身者を中心とした「ときわ会長岡グループ」ともいべき「閥中閥」中の「閥中閥」によりその大多数が占められている。つまり附属長岡小学校の教員は①「ときわ会」であり、②新潟大学教育学部出身であり、③「ときわ会長岡グループ」に人脈的に帰属している、という三重の「閥」支配のもとにあり、それが又「なれ合い」を助長している。「長岡グループ」は長岡市、小千谷市、与板小などの中越地方の小・中学校、さらに上越地方に点在する「ときわ会」管理職「指定席」を占拠しているが、附属長岡小学校の経歴はこのようなポストへの通過点である。したがって彼等は中越地方における「ときわ会」最高幹部である長岡市立阪之上小学校長（「ときわ会」副会長）や長岡市立南中学校長（「ときわ会」理事）などの目を気にしていつもビクビクしている。

e、教育学部附属幼稚園（長岡市）

附属幼稚園は第4表に示すように一九八〇年以前は副園長も含めて全員が女性教員であり、「派閥」とは関係がなかったが、一九八一年より「ときわ会」による人事介入が行われるようになった。まず一九八一年には副園長が「ときわ会」（「長岡グループ」）の校長格ポストになり、男性

附属長岡中学校

	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	性別	学内教頭
校長	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	男	
副校長	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
国語 1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	／	◎	◎	◎	〃	82教頭
〃 2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
社会 1	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃	
〃 2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
数学 1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃	
〃 2	◎	◎	◎	／	／	／	◎	／	◎	◎	〃	
理科 1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	〃	80、83～89教頭
〃 2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	／	◎	〃	
音楽	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
美術	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	81教頭
保体	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
家庭	／	／	／	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	女	
技術	●	●	☆	☆	☆	●	●	●	●	●	男	
英語 1	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	／	〃	
〃 2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	

第5表 附属長岡中学校の教員人事における「派閥」の分割統治の実態（斜線は空欄を示す）（1980～1989年）

となった。この最初の男性副園長はその後、中越教育事務所管理主事、長岡市立南中学校長などを歴任している。また一九八二年には教諭の一人が男性（無派閥）となったが一九八五年からは「ときわ会」の「指定席」になっている。なお副園長ポストは一九八九年には「ときわ会」校長格ポストから教頭格ポストに「格下げ」された。

f、附属長岡中学校

附属長岡中学校においては第5表に示すように「ときわ会」と「公孫会」とが教科ごとに「指定席」を定めて「分割統治」を行っている。副校長は新潟大学教育学部附属学校六校のうち唯一「公孫会」の「指定席」である。家庭科をのぞいてすべて「指定席」が定められ、数学と理科は二つのポストとも「ときわ会」の「指定席」、国語、社会、英語は「ときわ会」と「公孫会」とが一つずつ分けあっている。音楽、美術、保健、体育は「公孫会」の「指定席」である。ただし技術で一時期、「無派閥」の男性教員がいたが、転出する前年の秋に「ときわ会」に加入し、「ときわ校長」の学校に転出した。また表中の一名の欠員はかつて県の派遣研修生で補われていたが表では空欄にしてある、新潟中での不祥事を契機に引き上げられ、実質一名の欠員となった。この欠員は「派閥」に関係ない家庭科に振り当てられている。現在附属長岡中学校には女性教諭は一名もおらず、また無派閥の教員も一名もない。なお附属新潟

中学校と合わせてみると数学と理科だけが全員が「ときわ会」であり、その中でも数学は全員が新潟大学教育学部出身者によって占められている。

g、上教大附属小学校

一九八一年に新潟大学教育学部から上越教育大学に移管され、附属高田小学校から上教大学校教育学部附属小学校となった。その教員人事における「派閥」支配の実態を第6表に示すが養護教諭も含めて全員が「公孫会」である。これでは上越教育大学附属というよりは公孫会附属小学校といった方がより正確である。教員のうち新潟大学教育学部以外の出身者は二、三名である。また女性はいばらく二名であったが本年（一九八九年）より一名となった。これは前述のように全国最低の部類である。「公孫会」は「ときわ会」とは異なり、女性も加入させているので小学校教育にふさわしい男女教員の比率が配慮されそうなのであるが事実はそのようになっていないのである。これは附属小学校が男性公孫会員の立身出世の通過点になっているからであり、女性公孫会員は統制と集金と雑務の押しつけの対象としてしか考えられていないことをよく示している。なお「公孫会」の住所は上越市西城町一七一一 上越教育大学学校教育学部附属小学校気付で電話は（〇二五五）二二一四九九である。附属小学校の副校長が「公孫会」幹事長でもある。さて附属小学校はその敷地内の二本のいちじょうの老木と

上越教育大附属小学校*

	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	性別
校長	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	男
副校長	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
学内教頭	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
教諭 1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
〃 2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
〃 3	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
〃 4	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
〃 5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
〃 6	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
〃 7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
〃 8	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
〃 9	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
〃 10	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
〃 11	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
〃 12	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃
〃 13	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	男女男
〃 14	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	女
養護教諭	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	女

上越教育大学附属中学校*

	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	性別	学内教頭
校長	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	男	
副校長	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
国語 1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
〃 2	●	/	●	●	●	●	/	●	●	〃		
社会 1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
〃 2	●	●	/	●	●	●	/	●	●	/	〃	
数学 1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	80, 85~88教頭
〃 2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
理科 1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
〃 2	●	●	●	●	●	/	●	●	●	●	〃	
音楽	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
美術	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
保体 1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	〃	
〃 2	/	/	/	/	●	●	●	●	/	/	女	
技術	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	男	
家庭	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	女	
英語 1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	男	82~84, 89教頭
〃 2	●	●	●	●	/	●	●	●	●	●	〃	
養護教諭	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	女	

* 1980年まで新潟大学教育学部附属高田小・中学校

第6表 上越教育大学附属小・中学校における「派閥」(公孫会)の人事支配の実態 (1980~1989年)

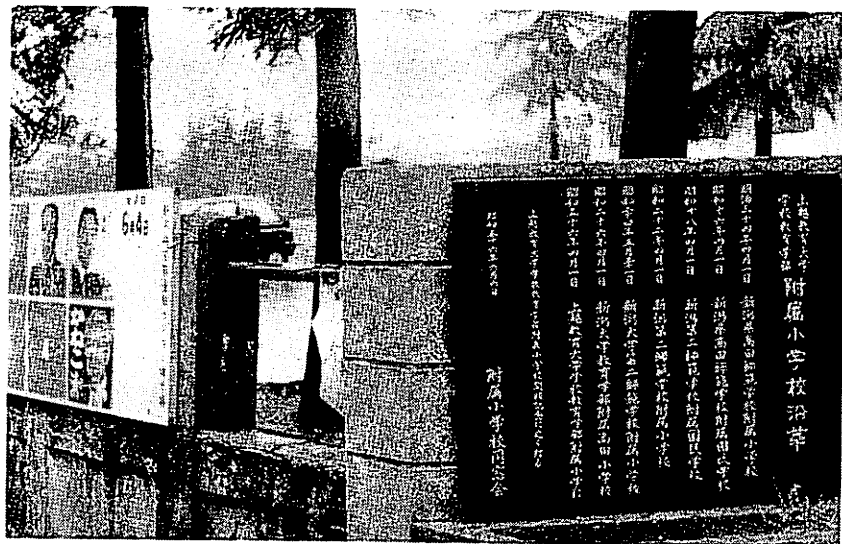


写真1 上教大附属小正門脇にこれ見よがしに掲げられている附属小の「沿革」を示す看板。この学校は「上教大附属」ではなく「公孫会附属」であることを無言のうちに語りかけている。なおこの看板は上教大附属小の開校にあって「同窓会」から大学に「贈呈」された。

ともに公孫会員統合の総本山となっている。その正門脇には明治三十四年の新潟県高田師範学校附属小学校としての開設以来の沿革を示す看板がこれ見よがしに掲げられ（写真1）、また構内には「新潟県第二師範学校等々の跡」という大きな石碑が「公孫会」によって立てられている（写真2）。この石碑の裏には「公孫樹下に集う会員五千有余名ここに母校への敬慕と愛惜をこめてこの碑を建てる 昭和五十七年九月公孫会」と刻まれているがこれは事実に反する。「会員五千有余名」のうちには新潟県第二師範学校や教育学部高田分校を「母校」としない「公孫会員」は多数いるのである。「公孫会」幹部の母校だから公孫会員はみんな自分の母校と思えということなのだろうか。

h、上教大附属中学校

附属中学校における「派閥」の人事支配の実態を第6表に示す。小学校と同様に養護教諭を含めてオール「公孫会」である。「公孫会」は養護教諭に対しても「派閥」支配をひろげており、附属中などの養護教諭には「公孫会評議員」のポストが与えられる。教員のうち女性ばかりはかつては家庭と保体の二名であったが定数一名の実質減が保体の女性教員の削減に使われ、現在は一名である。なお一九八七～八八年に社会と国語に一名欠員のあるのは附属中の教員一名が上教大大学院に現職の

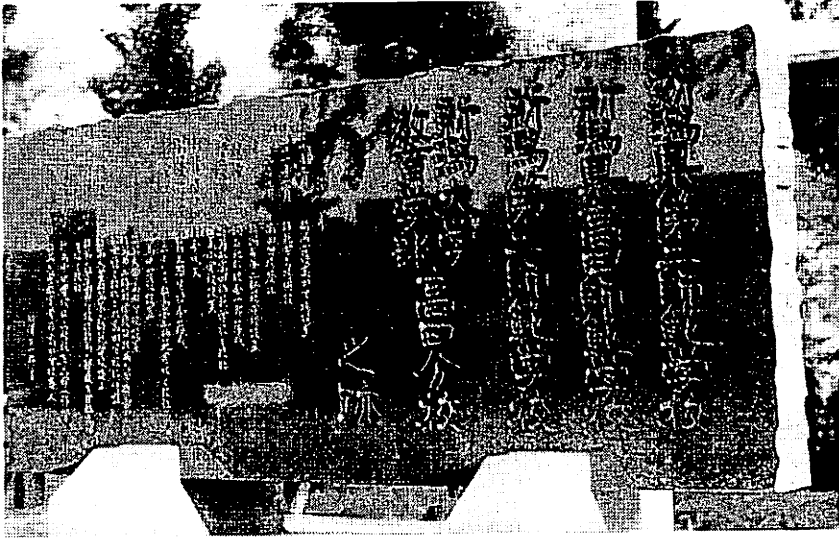


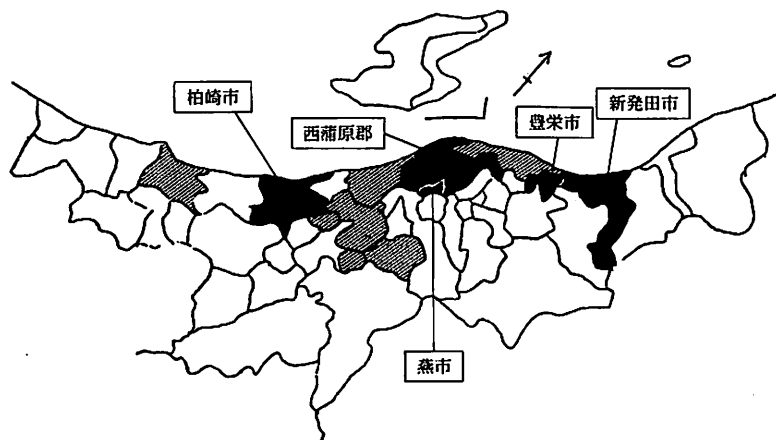
写真2 「公孫会」が「母校」跡に寄附建立した石碑（上教大附属小敷地内）。しかし「公孫会」には高田師範や教育学部高田分校を「母校」としない会員も多数いる。

まま進学したことにともなう欠員である。なお新潟大学教育学部以外の出身者は一、二名である。附属中学校副校長は「公孫会広報部長」を担当し、教頭はその下請けをしながら「公孫会報」づくりにいそしんでいる。

2、新発田市・豊栄市

今回、「派閥」の管理職ポスト支配（利権支配）の実態を紹介する地域の位置を第1図に示した。

さて、新発田市および豊栄市における「派閥」支配の実態を第7表に示す。新発田市はかつて青年師範学校が置かれていた「青菖会」のおひざもとである。しかし「青菖会」員の退職後は「ときわ会」が次々と「指定席」化している。「公孫会」は松浦小学校校長ポストと竹俣小学校教頭ポストを「指定席」化し、「検友会」は小規模校の車野小学校と赤谷小学校（準へき地）の校長ポストを「指定席」にしている。猿橋中学校の校長ポストは「新陽会」の「指定席」である。猿橋小では「ときわ校長」が前任校での職員の横領事件に関連してこの欠損金を立て替えるなどした不祥事で昨年（一九八八年）十二月依願退職したが、そのあとにはやはり「ときわ校長」が赴任した。なお「公孫会」が松浦小学校の



第1図 今回の紹介地域の位置（斜線部は前回、連載14回で紹介した地域）

校長ポストを手に入れた「派閥力学」については連載第六回で紹介した。

管理職ポストの大部分を占める「ときわ会」は新発田市の教育行政をも牛耳っている。一九八五年度には「ときわ会」の内紛で教育委員一名が欠員となったが（連載第三回参照）、現在その時の渦中の「ときわ会」員が教育長である。また学校教育課の課長、課長補佐、および地区指導主事はいずれも「ときわ会」の「指定席」である。

豊栄市はかつて木崎無産農民学校が設立された日本教育史上特筆すべき歴史をもつ地域である（連載第四回参照）。

一方「学園抗争」は戦前から今なお続けられており、豊栄市においては木崎中学校の校長と教頭、岡方第二小の校長と教頭ポストを「公孫会」が「指定席」化して今に至っている。ほかに横井小の教頭も「公孫会」の「指定席」であり、岡方第一中は校長、教頭とも「新陽会」の、長浦中学校と笹山小教頭は「検友会」の「指定席」である。

管理職ポストの大部分を指定席化している「ときわ会」は豊栄市の教育行政をも支配している。豊栄市教育長は「ときわ会」の「指定席」である。また教育委員一名も一九八九年度より「ときわ会」となった。さらに庶務学事課指導主事（指導係長事務取扱）も「ときわ会」の「指定席」である。

新発田市 (小学校)

学番	学校名	学級数	へき地	類型	校長ポスト										教頭ポスト													
					89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80				
1	外ヶ輪小	24		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2	猿橋小	20		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3	御免町小	20		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4	二蔵小	19		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
5	松浦小	8		B a	●	●	●	▽	▽	▽	▽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6	五十公野小	16		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
7	米谷小	6		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
8	赤谷小	4	準へ	D a	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
9	川原小	10		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
10	竹俣小	6		A b	○	○	○	○	○	○	▽	▽	▽	▽	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
11	車野小	6		D a	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
12	菅谷小	11		A a	○	○	○	+	+	+	+	+	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
13	七蔵小	12		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
14	佐々木小	12		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
15	住吉小	18		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
16	東豊小	19		A a	○	○	(新設)								○	○	(新設)											
		(廃)		(校)																								
		(荒川小)	6		(B b)	(松浦小に統合)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	(松浦小に統合)	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		(石川小)	4		(A a)										(菅谷小に統合)	○											(菅谷小に統合)	○
		(下中山小)	3	準へ	(D d)									(")	△												(")	△

新発田市 (中学校)

学番	学校名	学級数	へき地	類型	校長ポスト										教頭ポスト												
					89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80			
1	本丸中	25		A a	+	+	+	+	○	○	○	○	○	+	+	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	第一中	16		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	猿橋中	21		C a	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
4	東中	15		A a	○	○	+	+	+	+	+	+	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	川東中	7		E a	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	七蔵中	9		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	佐々木中	6		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

豊栄市 (小学校)

学番	学校名	学級数	へき地	類型	校長ポスト										教頭ポスト														
					89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80					
1	岡方第一小	8		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
2	岡方第二小	7		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
3	葛塚小	24		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
4	葛塚東小	26		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
5	太田小	6		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	▽	▽	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
6	本崎小	19		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
7	笹山小	7		A d	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
8	横井小	6		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
9	早通南小	27		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
10	豊栄南小	9		A a	+	+	+	+	+	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		(廃)		(校)																									
		(上土地亀小)	6		(A d)										(葛塚小に統合)	○	○	○								(葛塚小に統合)	△	△	○

豊栄市 (中学校)

1	岡方中	6		C c	*	*	*	*	*	*	+	+	+	+	*	*	*	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
2	葛塚中	28		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	本崎中	12		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	長沼中	4		D a	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	+	+	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	早通中	17		A a	○	○	○	○	○	○	(新設)															(新設)		

第7表 新発田市および豊栄市における「派閥」の管理職ポスト支配の実態 (1980年~1989年)

3、西蒲原郡・燕市

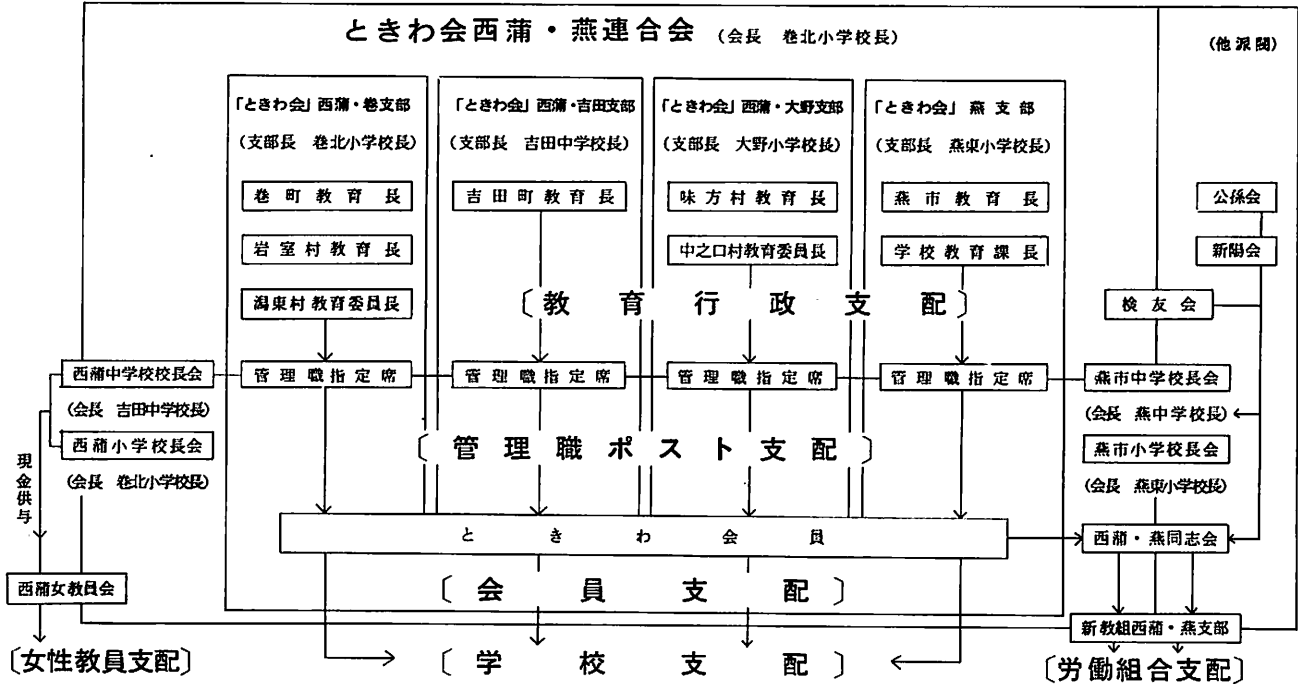
この地域は町長選挙をはじめ選挙になれば金品が飛び交い、「西蒲選挙」という言葉で嘲笑されるほどの民主主義の著しい後進地域であり、利権と金権と情実が何よりも優先される。「派閥」もまた例外ではない。

西蒲原郡における小・中学校管理職ポスト支配の実態を第8表に示す。「ときわ会」の「指定席」が多いが戦前からの派閥抗争の結果として「公孫会」もかなりの「指定席」をもっている。中でも弥彦村弥彦小、西川町升瀉小、吉田町吉田北小、黒崎町黒鳥小、分水町分水中、巻町巻東中は校長、教頭ともに「公孫会」の「指定席」で、いわゆる「公孫の学校」になっている。「公孫会」の「指定席」は西蒲原郡の十一町村のうち八町村の学校に配置されている。「新陽会」は巻西中、黒崎中、月瀉中の校長ポストと巻西中、中之口中、立仏小の教頭ポストを「指定席」にしている。「検友会」も小規模校を中心にかなりの「指定席」をもっているがその管理職の大部分は「ときわ会」にも二重に加入し、「ときわ会」の「従属閥」となっている。

「ときわ会」はこの地域に巻、吉田、大野、燕の四つの支部を置き、この四つをあわせて「ときわ西蒲・燕連合会」と称し、教育行政支配、管理職ポスト支配、学校支配、教

員組合支配、それに女性教員支配を行っている。その全体の構図を第2図に示した。巻町、岩室村、吉田町、味方村、瀉東村と中之口村の教育委員長も「ときわ会」の「指定席」であり、「ときわ会」退職校長の「天上市」ポストとなっている。また「派閥」校長の組織である西蒲小・中学校校長会は「西蒲女教員会」に現金二十万円を供与し、「女教員会」をつうじて「派閥」の外の女性教員を統制している。

さて西蒲原郡・燕市地域の「ときわ会」支配の拠点は巻北小学校である。巻北小学校長は「ときわ会」西蒲・燕連合会長であり西蒲・巻支部長でもある。また西蒲小学校校長会会長でもあり厚生財団西蒲支部長でもある。また組合の「派閥」支配のための謀略組織「同志会」の西蒲・燕の「事務局」は巻北小学校に置かれ、巻北小の「ときわ会員」が会長を務めている。また「派閥」御用組合派から立候補した新教組西蒲・燕支部現書記長も巻北小学校の「ときわ会員」である。また現巻町教育長も元巻北小学校長である。巻北小学校では前天皇の病気を理由に県内でまっ先に創立十周年記念行事を「自粛」した（一九八八年十月）。このように彼等は教育長から校長（校長会長）から教頭から「同志会」の会長から組合幹部まで「ときわ会」という同一のインフォーマル組織（利権集団）の一員であり、封建的主従関係で結ばれている。このような「人間関係」は「派閥」の



第2図 「ときわ西蒲・燕連合会」による公教育支配の構造

燕市 (小学校)

学番	学校名	学級数	へき地	類型	校長ポスト								教頭ポスト											
					89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80
1	燕東小	15		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	燕西小	24		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	燕南小	11		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	燕北小	12		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	小池小	13		D a	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6	大関小	11		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	小中川小	19		B a	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	松長小	6		A d	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	+	○	○	○	△	△	

燕市 (中学校)

1	燕中	31		C a	*	*	*	*	*	*	*	*	*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	小池中	12		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	燕北中	13		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

第9表 燕市における「派閥」の管理職ポスト支配の実態 (1980年～1989年)

人間関係の基本である。なお巻町の学校教育課参事・指導主事は「公孫会」の「指定席」であり、上教大附属学校から「公孫会員」が転任してきている。教育委員のうち一名も「公孫会」の「指定席」である。燕市における「派閥」の管理職ポスト支配の実態については第9表に示した。

4、柏崎市

柏崎市の小・中学校における「派閥」の管理職ポスト支配の実態を第10表に示す。そのほとんどが「公孫会」の「指定席」である。中学校については「ときわ会」は「公孫会」のシフトによって柏崎市以西では「指定席」をもっていない。小学校では鯨波小、日吉小、鰯石小の三校が校長、教頭とも「ときわ会」の「指定席」で「ときわの学校」である。校長と教頭「派閥」の系列化のために一九八四年に日吉小と中通小の教頭の「派閥」の「入れかえ」が行われた。また第二中の校長と中通中の教頭は「新陽会」の「指定席」である。中通中学校長ポストは「検友会」(「独立検友」)と「ときわ会」などに二重加入しない)の唯一の「指定席」にされており、「公孫会」支配からはずれて「唯我独尊」の立場にある。柏崎市の小・中教員約五六〇名のうち男性教員の七割強、女性教員の三割弱が「公孫会員」であり、(ちなみに「ときわ会」は十五名程度、「新陽会」は四十五名程度、「検友会」は

柏崎市 (小学校)

学番	学校名	学級数	へき地	類型	校長ポスト										教頭ポスト									
					89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80
1	柏崎小	27		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
2	比角小	27		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
3	枇杷島小	20		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
4	半田小	14		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
5	大洲小	19		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
6	鯉波小	6		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
7	上山山小	3	塚へ	B a	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	▽		
8	横原小	6		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
9	日吉小	7		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
10	荒浜小	13		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
11	新道小	13		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	(新設)	●	●	●	●	●	●	●	(新設)		
12	田尻小	17		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
13	北鱒石小	7		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
14	中通小	6		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○		
15	米山小	6		B b	●	●	△	△	△	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
16	高浜小	6		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
17	南鱒石小	7		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
18	鱒石小	7		A a	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
19	別俣小	4	特地	B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	▽	●	●	●	●	●	●	●	●		
20	野田小	6		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
21	鱒川小	3	へI	B b	●	●	+	+	+	+	+	+	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
22	北条南小	8		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
23	北条北小	6		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
(廃校)																								
廃	(高田小)	10		B b						新道小	●	●										新道小	●	●
＊	(上条小)	6		B b						新道小	●	●										新道小	●	●

柏崎市 (中学校)

1	第一中	16		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
2	第二中	18		C b	*	*	*	*	*	*	*	*	*	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
3	第三中	19		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
4	西中通中	7		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
5	松浜中	8		B b	●	●	●	●	●	(新設)			●	●	●	●	●	●	●	(新設)				
6	第四中	7		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
7	東中	11		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
8	中通中	3		D c	△	△	△	△	△	△	△	△	△	*	*	+	+	+	+	+	+	+		
9	米山中	3		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
10	第五中	7		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
11	城北中	3		B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
12	鱒川中	1	へI	B b	●	●	●	●	●	●	●	●	●	▽	▽	▽	●	●	●	●	●	●		
13	北条中	7		B b	●	+	+	+	+	+	+	+	+	●	●	●	●	●	●	●	●	●		
(廃校)																								
廃	(荒浜中)	7		B b						松浜中	●	●	●	●								松浜中	●	●
＊	(高浜中)	3		D b						松浜中	△	△	△	△								松浜中	●	●

第10表 柏崎市の小・中学校における「派閥」の管理職ポスト支配の実態
(1980~1989年)

二十名程度である。)「公孫会柏崎支部」は柏崎市の公教育を支配している。柏崎市教委の教育長と学校教育課長は「公孫会」の「指定席」である。「公孫会柏崎支部」の拠点は「柏崎小学校」であり、柏崎小学校長が「公孫会柏崎支部長」でもある(年度によっては第一中または第三中学校長が支部長である年もある)。柏崎小学校教頭は「柏崎支部代表幹事」として「閥務」に忙しい。柏崎小学校長は柏崎市小学校長会会長、新潟県小学校長会幹事、柏崎市小学校教育研究会会会長、新潟県小学校教育研究会幹事、厚生財団柏崎支部長を兼務している。「派閥」御用組合派から立候補した現新教組柏刈(柏崎市・刈羽郡)支部副委員長と書記長も柏崎小学校の「公孫会員」で、一つの学校で「閥務のすべて」が行えるようになってきている。「公孫会柏崎支部青年部長」も柏崎小学校のことが多い。柏崎小学校には「ときわ会員」はいない。男性教員は二十名のうち、二十二歳の新卒教員一名をのぞいて残り全員が「公孫会」、女性教員は二十名のうち、養護教諭も含めて十三名が「公孫会」である(一九八五年度)。

女性教員の「会員」の年令をみると、二十三歳から三十歳までの若手女性教員九名は全員「公孫会」に加入させられているのに対し、三十四歳以上は十一名のうち四名しか加入していないのが特徴的である。「派閥」の何たるか社会的判断のつかないうちに甘言と強迫、それに「未熟さ」をつかれて無理やり加入させられているのが実情であろう。

自分でできる「派閥」チェック — 教員異動の新聞報道の使い方 —

「派閥」は学校内でそのことを話題にすることも「タブー」とされるぐらいの「秘密結社的教育団体」であり、また教員採用から教員の異動・昇任まで差別と情実の人事を「公教育」の裏側であやつっている「秘密警察的教育団体」であり、また利権的公教育支配や教員組合支配などの社会的不正にも「平然」としている「厚顔」で反社会的な「教育団体」である。「派閥」の「研修」は「派閥」への「帰属意識」の高揚と「閥内競争」における「点数かせぎ」のためのものであって、県民の期待するような教育の今日的課題に対しては「事なかれ主義」があるのみである。またにも教育問題を論じると(「派閥」ではそういう情熱と正義感
は失われているが)「白眼」で見られるのである。

「派閥」は社会に対してその「秘密性」を保持し、さまざまな詭弁や強弁をつうじて社会をあざむいてきた。しかしその「仮面」がはがされ、社会的にその実態が明らかになるにつれて、県民はおどろき、自分の子供の受持ちの先生はどうなっているのだらうかと気になり出し、そして新潟県教育界の「現状」についての怒りがひろがっている。最近、「財界にいがた」誌十一月号(一九八九年)

は「新潟・教育界の『恥部』学閥問題を抉る!!」校長人事は学閥力学で決まっている」という特集でこの問題を大きくとり上げた。

さて「派閥」による校長や教頭ポスト支配の実態について読者が自分でチェックする方法を紹介しよう。例年三月末になると新聞で教員の異動名簿が発表されるがそれを使うのである。新聞からは個々の教員の異動について前任校と新任校が掲載される。校長の異動については本連載のデータなどから前任校ポストでその校長の所属派閥がわかり、したがって新年度の新任校の校長「派閥」を知ること

ができる。読者は新年度の校長「派閥」が前任校校長と同一「派閥」であることに改めて驚かれるに違いない。教頭から校長への昇任異動、教頭の転任についても同様の方法でチェックすることができる(ただし新任教頭については所属「派閥」がわからないが附属学校からの昇任は見当をつけることができる)。以上、腑に落ちない点があれば教育委員会に問い合わされたい。教育委員会は公的な異動について、「派閥」による介入のないことを県民が納得できるように事実にもとづいて説明する責任がある。

(つづく)

二月に自治体問題研究所に入会し、去る一月一八日と一九日の二日間、初めて自治体学校に参加させていただきました。私にとっては、四人の子どもと家庭と勤めとをもち、参加すること自体がとても困難なことです。しかし今の機会を逃せば、いつまた参加できるかわからないし悔いが後まで残るだろうと、すべてを差し繰っての参加となりました。ですから、自らの総括の機会となり、理論を高め、多くの新しい先輩たち友人た

かう自治体労働者運動の発展にむけて「市民生協と地域のネットワーク」は、日々の生活や町の現状や施策、あるいはまた住民諸団体等の活動に照らして一つひとつ思いあたり、うなずかれることばかりでした。私が所属している各種の団体や職場の実態をみると、その団体的に沿って生き生きと活動し、着実な成果をあげている団体とそうでない団体があります。なぜそうなるのかということ

の公費助成の拡大要求などがあげられま

す。

最後に、いいがた自治体学校に初めて参加しての感想を述べます。

夜の交流会は、全県にまたがりすばらしい先輩たちを知り、新しい友人をつくらたいへんよい企画だったと思います。もっともっと多くの方々

に研究所を知らせ、加入していただくよう働きかけなければなりません。自治体学校にも、開かれた学校ということで、もっと幅広い階